



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
 編集 早川清志  
 題字 島崎洋路

# 『森づくり事始め』

集中コース秋の部開催報告



伐倒は、受け口・追い口・蝶番

秋晴れの抜けるような青い空と錦秋の山々に包まれての開催となった今回の集中コース秋の部。遠くは大阪から参加の方、近くは地元伊那から参加の方など、総勢七名の方々が参加されました。この時季としては比較的暖かくポカポカ陽気の

に終わってしまいました。森にはいろいろな樹があるけれど、人工林で直径を樹高を測って、健康診断してみたら…。樹の悲鳴と頭うな施業計画。チェーンソー、事始めにて、丸太伐り。伐倒は、受け口・追い口・

三日間でしたが、とはいえず、二泊三日はあつという間

蝶番。枝払い、元口からの、玉切り造材。ウィンチで、寄せて寄せて、簡単集材。

相変わらず、ぎゅつと。ぎゅつり詰め込みすぎたかもしれない三日間でしたが、この一連の流れの中で、ポイントを掴んでいただけでしょ。うか。「何か」を持ち帰っていただけたでしょうか。森林塾は「何か」を提供できたでしょうか。間伐は一回では終わらな



まずは、輪切りから

い。その都度、枝・葉が成育できる空間を確保してやらねば。また、間伐後も時折残った樹の枝葉の成長を確かめながら林冠が閉鎖しないように、次の間伐時期を逸しないようにしなければなりません。皆さんのお付き合いも一回では終わらない。むしろこれから始まる。そう思っています。少しでも森林や林業のことを知りたくて参加をしたけれども、新たな疑問が発生しました。



胸の高さで、胸高直径

してしまつた…。こんな林はどうしたらいいの…。そんな疑問・質問などありません。ありがとうございました。局までご連絡ください。

12時 昼食  
 12時45分 現場に移動して各班毎にプロット調査。釣り竿を使った円形の標準地。胸高直径・樹高の測り方。この林の樹の年齢は三十歳。



先生方を囲んで

今回の内容  
 集中コース秋の部  
 10月30日(木)～  
 11月1日(土)

一日目  
 8時30分 島崎先生の山小屋にて受付開始。  
 9時 講師の先生方の挨拶の後、塾生の方の自己紹介、インストラクターの紹介、事務局挨拶、オリエンテーション。日程説明。  
 9時50分 樹木の検索の仕方。引き続いて、森林業の現状と

14時30分 小屋へ戻りデータ解析。健康診断をして、処方を決める。各班とも相対幹距比が十九、二十。地位が低く、樹高成長がなかったため現状のままでも？  
 16時 施業計画の立案方法について島崎先生の講義。植栽本数が少なく、植栽後手入れが成されていない状況を鑑み、十年後の相対幹距比を二十と設定した間伐と保残木の枯れ枝打ちを実施することとする。



ぶり縄、初体験!



簡単集材・ひっぱりだこ



ストップ!ストップ!!



仕事の終わりは、メンテナンス

17時30分  
初日終了。

18時30分  
交流会開始。バーベキューとやきそば。

20時30分  
交流会終了。

二日目  
8時30分  
小屋集合。日程説明の後、早速現場へ。

9時  
各班毎に保残木マーキング。そして、いよいよチェーンソー。始動方法と禁止事項を習ったら、丸太伐りからはじめましょう。

11時  
各班とも早くも伐倒方法の解説を終え伐倒開始。

現場にて昼食。  
12時45分  
伐倒再開。方向を決めて受け口・追い口。つるは残して蝶番。ヒノキ林だけれど、そんなに込んでないので、かかり木もなく間伐が進む。同時に保残木の枯れ枝打ちを行い、森の中にどんどん光が入ってくるようになる。

16時  
途中、何回か休憩を取りながら今日の作業を終え、チェーンソーメンテナンス。

17時  
本日終了。

三日目  
8時30分  
小屋集合。今日も早速現場へ。

9時  
昨日の続きの間伐開始。途中、ぶり縄の使い方講習。

11時  
間伐を終了し、一班は「ひっぱりだこ」を、二班は「キャタトラ」を使った集材を行う。

12時  
今日も現場で昼食。

12時45分  
集材再開。今度は、一班が「キャタトラ」、二班が「ひっぱりだこ」。島崎先生による背負い式枝打ち機の実演もありました。

13時45分  
チェーンソーメンテナンスを終え、作業終了。

14時15分  
小屋へ戻り、質疑応答。保科先生・島崎先生の総評。

15時

これにて集中コースは終了。解散。怪我なく無事作業を終えて頂いたこと、間伐・枝打ち・集材できれいな森にして頂いたことに感謝致します。ご苦労様でした。

今回の参加者/石井さん、上野さん、遠藤さん、内藤さん、橋本さん、藤田さん、松本さん

講師/保科先生、島崎先生  
スタッフ/川島 後藤、早川 坂野

次回以降の予定

第十五・十六回

11月21・22日(金・土)

炭焼き・その他

移動式の炭化炉と、できればドラムカンでも焼いてみます。炭窯に火を入れたら

第十七回

3月6日(土)

きのこ菌うち

伐倒の復習です。翌日は炭出しの後、長谷村の保科山林の見学を予定しています。希望者は施業診断等の復習もできます。他の希望あれば事前にも事務局まで。一日目の夕方から火の番をしつつ、希望者で少し早い忘年会です。幹事さん募集

最終回になります。原木にきのこの種駒やおが菌を打ってみます。担当は両先生。この時期、凍結・降雪など信州の気象・道路情報にご注意ください。

# リレー通信

## 五十歳からの人生

～「故郷造り」を目指して～

茂籠 好彦

皆さん今日は。我が道を追い求めながら、よく言えば修行人生、悪くいえば半ばブータローのような気ままな生活を送っている間に、時は過ぎ去り、気がつけば一人身のまま今年で四十九歳になってしまった茂籠です。残された我が人生(現役生活を続けられるのはせいぜいあと三十年?)を見据え、本来の自分に立ち返り、残された時間を真実にシン



故中田正一先生の主宰されていた、まだ出来て間もない頃の「風の学校」(千葉県

ブルに生きなければと秘めたる思いを持ちながら、私の人生は五十歳から始まる。自分の気持ちを整理しているこの頃です。

私は京都府の丹後(野田川町)出身ですが、高校卒業まで山(大江山)と川(野田川)とすぐ近くに海(日本三景の一つである天の橋立)のある片田舎の町で育ちました。昭和二十九年生まれの所謂高度経済成長とともに育った世代です。

かいつまんで私の履歴を紹介しますと、高校卒業後、国立理系を目指して四年間(四年目は父親の猛反対を押し切り、東京に上京して新聞奨学生となり埼玉県草加市で)浪人生活を送った後、私立の国際基督教大学教養学部社会科学科に入学。大学七年生の時にアジア学院(栃木県西那須野町)と出会い、発展途上国の農村開発を志すようになる。結局この大学に十年(内、休学二年)在籍して退

学(実質は落第!?)。大学退学後、農業技術を勉強しようと、故中田正一先生の主宰されていた、まだ出来て間もない頃の「風の学校」(千葉県

大多喜町)という民間団体に入学して、井戸掘り研修生第一号となる。北部タイでの四十日間に及ぶ研修や日本における二年間の実地研修の後、井戸掘り専門家としてフィリピンに派遣され、ネグロス島、ギマラス島、ミンダ

ナオ島、パラワン島等で井戸掘りプロジェクトに三年間関わり帰国。一時掃国のもりで日本に帰ってきたが、非常に不本意な形で「風の学校」を飛び出ることになり、結局その一年後からは、栃木県西那須野町(一年七九月)、京都市伏見区(二年八九月)、長野県松本市(三年)と拠点を移動しながら専ら井戸掘り修行を続行する。

フィリピンで活動した三年間は私にとって、とても楽しく生き活きとしたものでしたが、フィリピンでの活動を通じて、次第に森林・林業に関して問題意識を持つて向き合うようになっていきました。マニラ空港(パナイ島のイロイロ空港?)付近

だったが、飛行機から見渡せる風景は、まるで芝生の丘のような山々が広がってしました。逆にまた未開発のミンダナオ島では、原生林の巨木の生い茂る山を背後にひかえた海岸ペリで、波打ち際に自墳している水を生活用水として自由に使っていました。まさに木々の生い茂る緑

深い所には豊かな水があることを目の当りに実感した次第です。松本で井戸掘り修行をしていた頃、下條村でフリー・スクールのやっていたいる大学の時代の友達が、長野県林業総合センターで行われている林業士養成コースを受講するため、私のアパートに何回か立ち寄ったことが契機となり、井戸掘り修行に区切りをつけて私もこのコースを受講することになりました。

この友達を頼って下條村に転居し、近くの造園会社に勤めながら、第十四期の林業士養成コースを去年の十二月に終了し、今年の三月無事に長野県林業士として認定されました。

この林業士養成コースで出会った大月國晴さん(第八期夏期集中コース、第九期専門コース終了)から、島崎先生の存在やその著書、島崎研修所、KOA森林塾について

の情報を得ていきましたが、去年の十一月大町で行われた「第二回ボランティアでつなぐ森林の回廊」の講習会に出席した折、直接島崎先生にお会いし、今年の新年明けに島崎先生の「山造り承りませ」を読んで感銘を受け、迷わず七万円という大金を払ってKOA森林塾の通年コースを受講することを決めました。KOA森林塾の講

習は、森林整備に関する実践的な技術・知識がコンパクトに凝縮されていて、私にとってはとてもよい復習になっていきます。

私は来年には、長年放つてあった実家のことを整えるために私自身の故郷に帰ろうと考えています。私の発展途上国での開発協力活動の哲学は、その国、その地域、その村の「故郷造り」に協力することであると思いつくようになっていきましたが、まず自分自身の故郷の里、山造りにたずさわりながら、次世代を担う子供達を逞しく豊かに育て、我々大人を大らかに受け入れリフレッシュしてくれ

るような「故郷造り」を目指していきたいと思っています。

最近、自分はバカであると思つたほうが、真実で何と気が楽で自由であるかと思うようになりました。二股木や曲がり木であつても、逞しく生きてきた、またこれからも逞しく成長するであろうそれぞ

またその生氣、靈気を身体一杯に受けながら我が身を整え、五十歳からの人生を歩んでいきたいと思ひます。

# リレー通信

森林塾は楽しい!  
山と動物と自然と友に  
武田 芳男

森林塾を知ったのは、数年前の島崎先生が出ているテレビ番組でした。山からの帰り道でリョウブの芽をつみながら、「昔から山の恵みをお願いしていたよ、この木はリョウブといつて、新芽をいれて炊くご飯はおいしいねえ!」というような話をしてるのを見た時で、林業に関係ないような広葉樹のこともよく知っていて、山が好き、自然全体が好き、という雰囲気を感じさせられたのです。それを見るまでは人工林はスギやヒノキの単一植生で多種の

鳥や動物は嫌う環境だと  
思っていたし、林業者は針葉  
樹だけを育てることしか頭  
にないと思っていたので、い  
ろんな広葉樹やきのこの話  
をしながら、広葉樹もたくさ  
ん生えているきちんと管理  
された人工林の豊かさと、放  
置された暗い林を何とかし  
なくてはということ語って  
いた鳥崎先生の映像はか  
なり衝撃的でした。

そして、インターネットで  
森林塾を探し、二年前前に応  
募しようと通年コース、集中  
コースの資料を取り寄せた  
けれど、仕事の関係で休みが  
取れなくて参加することが  
できませんでした。今年、  
金・土という組み合わせで  
月に一回ずつ。私にとっては  
参加しやすい日程になって  
いたので、さっそく応募しま  
した。あっさり受付の通知  
をもらって参加した四月、昨  
年までは抽選だったんです  
よ、といわれて、運がよかつ  
たと感じました。こういうの  
が縁というのでしょうか。



鳥崎先生も言われている  
ように、山をきつちりと管理  
することで広葉樹も増えて  
地力や水を保ち、いろいろな  
動植物たちも棲めるように  
なってくるといわれます。で  
も、そういうことは自分の頭  
でわかっているだけで、実際  
のところは他人まかせにな  
ってしまっています。自分  
がその力になれるかどうか  
はともかく、まず自分の体で  
体験したいと思いました。す  
べてのことが体験できるわ  
けではないけれど、自然の中  
で体を使って、動物や植物な  
どの環境のことも考えるこ  
とができることだから、山仕  
事なら体験できそうだと  
思ったわけです。私は動物園  
に獣医として長い間勤めて  
いましたが、下刈りで見つ  
かったノウサギの子どもを  
受け取ってミルクを飲ませ  
て育てたり、切り倒した木  
の中にいたムササビの子ども  
やカモシカ、イタチ、いくつ  
かの小鳥たちのヒナも育て  
てきたことはありませんが、

彼らが生活している山  
の中のことはほとんど  
知らなかったことも動  
機の一つでした。そし  
て今回、山に入って植  
林し、計測し、診断し、  
間伐や枝打ちをしてき  
てみて、山の環境や山  
造りについてますます  
興味湧いていて自分

を感じています。

間伐の時、木の重心を見て  
倒す方向を決め、受け口を  
作って追い口にチェーン  
ソーを入れる。なかなか思っ  
たところには倒れてくれな  
いが、それでもたまには思っ  
た方向に倒れてくれます。そ  
の時は、なんともいえない  
気分になってしまいます。  
ただ一つ困難と思ったこと  
は、枝打ちでした。高いこと  
ろが苦手で、建前で二階の屋  
根にあがって餅を撒くとき  
でさえ、しっかりと立てな  
かったくらいでしたから、支  
えのしっかりしていない木  
の上での枝打ちはどうなる  
ものかと我ながら心配しま  
した。しかし、ぶり縄が楽し  
かったのが、三段目の約五m  
くらいまでは登ることがで  
きて、自分では満足できま  
した。体が動くうちに、退職後  
の生き方を考えたいと思っ  
て山造りもその候補に入れ  
ました。そして今、たくさん  
の収入ではなく、生活できる  
だけの収入でいいと思えば  
何とかできるかもしれな  
いと思っています。

また、こういう体験を基礎  
にして、自然の仕組みとい  
うか、生き物たちの関わり合  
いというようなことを伝える  
こともやってみたいこと  
の一つです。下刈りや間伐の林業  
そのものだけでなく、山  
や森の中で楽しく遊ぶ、たく

さんの種類の植物や動物を  
おもしろく感じる、自分もこ  
ういうところから生きる元  
を得ているというようなこ  
とを、山に入る機会のない人  
に伝えていくのも必要では  
ないでしょうか。環境教育の  
分野になるのですが、イン  
タープリターというのがあ  
ります。直訳では通訳とい  
うことですが、自然を人に翻訳  
して伝えるというような意  
味からきているようです。林  
業に関するインタープリ  
ターも、理解を得る上では活  
用していいと思うのです。そ  
うすれば、山を造っていくこ  
との重要性とか、自分とのか  
わりも楽しみながらわか  
らせてくれるようになってい  
くかもしれません。

コラム

信州の晩秋は”そば”の  
季節でもあります。その年に  
収穫されたソバの実で打た  
れる”新そば”を食するのは、  
一年に一度の楽しみといえ  
るでしょう。

そば処として有名な信州  
には、そばの名店がたくさん  
ありますが、私の一押しは  
駒ヶ根にあるそば屋で、丸



富」です。県内の秘境、上村  
の下栗地域で採れたソバの  
実を100%使った十割そばの  
「しらびそ」は、十割そばの  
イメージを覆す一品です。  
ちよっと足をのばして、是非  
立ち寄ってみてください。



嘘子

おわりに

さまざまな広葉樹や落葉  
松の紅葉が美しい季節に  
なってきました。「紅葉」と  
書いて「もみじ」、「栂」とい



えは「かえで」。カエデとい  
えば紅く色づいた葉や黄落  
を思い浮べる方も多いかと  
思いますが、「たね」にも大  
きな特徴があることをご存  
じでしょうか？

その種は、ブーメランのよ  
うな羽が生えていて、樹から  
落ちる時には、ヘリコプター  
のプロペラのようにくるく  
ると回転しながらゆっくり  
と落ちていきます。大きな樹  
から落ちた場合に風に乗る  
と、何十メートル・時には百  
メートル以上も運ばれるこ  
ともあるそうです。

この季節、楓の樹のまわり  
に落ちていることが多いと  
思っているので、「紅葉狩り」に出  
かけられ  
た時や公  
園での散  
歩の際な  
ど、足下  
にも気を  
つけてみ  
てください  
い。きつとかわいいブーメラ  
ンが見つかると思います。



投稿大歓迎。ご意見、ご質問、  
ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994



E-mail:  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062 (開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp